

群 教 セ	G03 - 02
	平25.251集
	小・特別活動

小学校学級活動における 自己肯定感を高める話し合い活動の工夫 — 事前意見カードの活用と話し合いルールを設定を通して —

特別研修員 西村 晋一

I 主題設定の理由

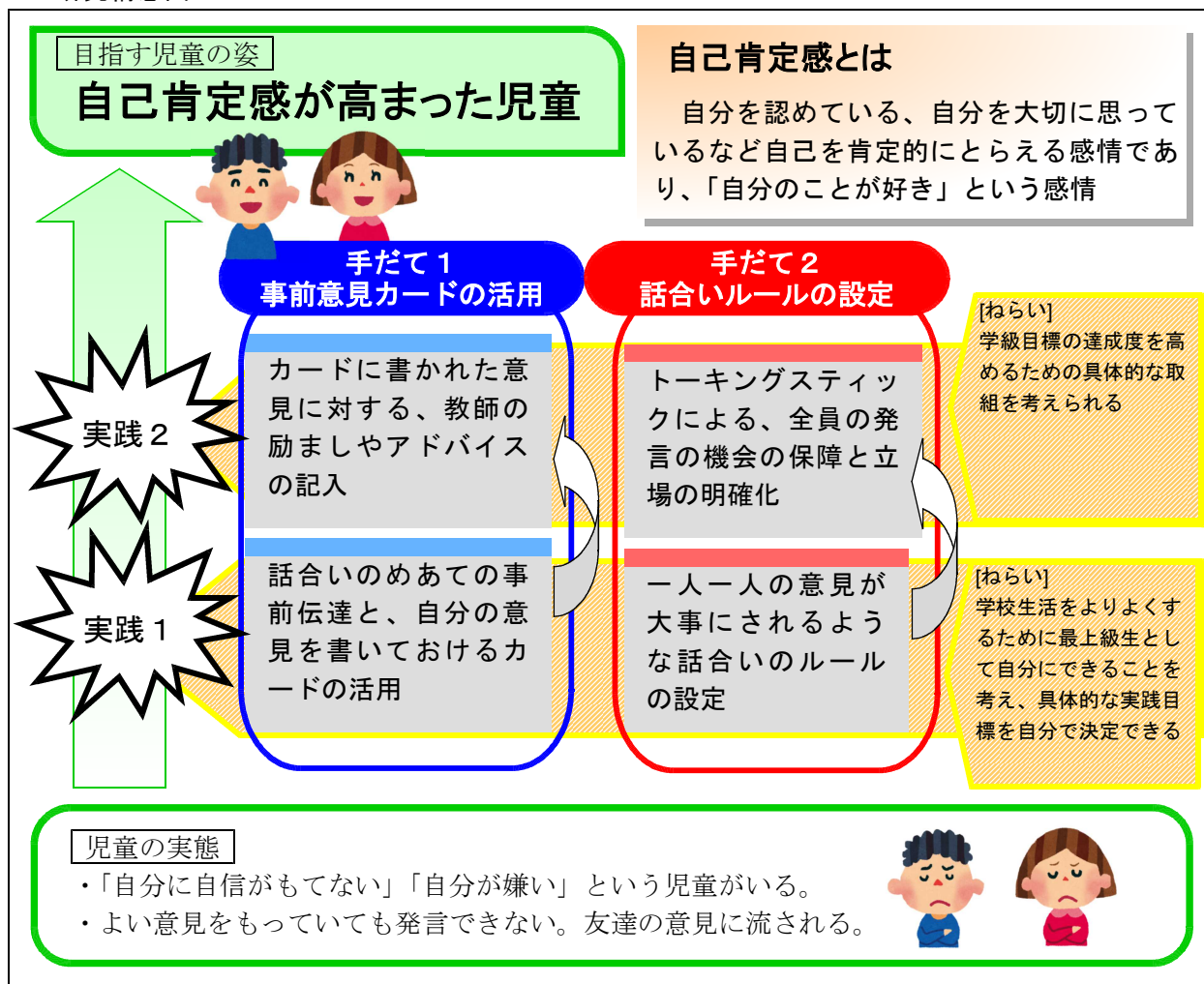
「はばたく群馬の指導プラン」には、ぐんまの子どもに伸ばしたい資質・能力「豊かな心」の一つとして、「向上する心（自分のよさに気付き、夢や希望をもつことができる）」が挙げられている。

本学級の児童は、明るく素直であり、最上級生の役割を意識してまじめに生活しようとしている。しかし、児童へのアンケートを実施したところ、全国的な傾向と同じく、「自分に自信がもてない」「自分が嫌い」という様子が見られた。こういった傾向のある児童は、話し合いの場面になると、よい意見をもっているにもかかわらず発言できなかったり、友達の意見に流されてしまったりしている。

そこで、本研究では、話し合い活動において、事前意見カードを活用したり、一人一人の意見が大事にされるような話し合いのルールを設定したりすることとした。自分の考えを友達に聴いてもらったり認められたりすることで、自分に自信をもち、自分を認めるようになり、自己肯定感が高まると考える。このような考えから、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

題材「最上級生としてできることを考えよう」(第6学年・2学期)において、自己肯定感を高める話し合い活動となるよう、以下のような手だてを考え、実践を試みた。

—— 実践1における研究上の手だて ——

- 話し合いのめあてを事前に伝え、事前意見カードに自分の意見を書いておけるようにすることで、意見をもった上で話し合い活動に参加し、自分の意見を進んで発言できるようにする。
- 一人一人の意見が大事にされるような話し合いのルールを設定することで、安心して自分の意見を言えるようにする。

話し合いを通して学校生活をよりよくするために最上級生として自分にできることを考え、具体的な実践目標を自分で決定できるようにすることがねらいとなる。研究上の手だてを具体化した結果、自己肯定感が高まる第一歩として、話し合いの中で自分の意見を進んで発言しようとする児童が増えた。しかし、自分の意見に自信がもてなかったり、ふだんから発言に消極的だったりする児童は、事前意見カードにより意見を書けていてもそれを発表できず、話し合いへの参加も積極的とは言えなかった。

そこで、題材「学級目標の達成度を高めよう」(第6学年・2学期)の話し合い活動では、実践1の考察を踏まえ、話し合いへの能動的な参加を促すために、次のような手だてを追加した。

—— 実践2における研究上の手だて ——

- 事前意見カードに書かれた意見に対して、教師が励ましやアドバイスを記入することで、自分の考えに自信をもって話し合いに参加できるようにする。
- トーキングスティックを活用することで、全員の発言の機会を保障したり、発言したり聴いたりする立場が明確になるようにしたりする。

話し合いを通して学級目標の達成度を高めるための具体的な取組を考えられるようにすることがねらいとなる。研究上の手だてを具体化した結果、意見を出し合う際に、ふだんは意見をあまり言えなかったり友達の意見に流されがちだったりする児童も、しっかりと自分の意見を発言することができた。また、友達の意見を落ち着いて聴くようになり、友達の意見を認めるつづやきが増え、よい雰囲気での話し合いにつながった。振り返りでは、自分に自信をもち、自分を認められるようになってきた様子が見られた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 話し合い活動において、事前意見カードを活用したり、一人一人の意見が大事にされるような話し合いのルールを設定したりすることによって、児童は安心して進んで発言したり落ち着いて意見を聴いたりできた。
- 「自分の意見が言えた」「意見を聴いてもらえた、認めてもらえた」という経験が積み重なり、自分に自信をもち、自分を認められるようになってきた様子が見られ、自己肯定感が高まった様子が見られた。

2 課題

- 様々な意見を肯定的に受け止めることはできたが、考えのよさをとらえることは不十分だった。
- 本研究では、学級活動における話し合い活動に限定して行ったが、他の教科等でも応用できるよう、さらに手だてを一般化する必要がある。

3 自己肯定感を高める話し合い活動のさらなる充実に向けて

- 自分や友達の意見のよさを伝え合うなど、様々な考えのよさをとらえられるような工夫をしていくことで、互いを認められるようになり、自己肯定感がより高まると考える。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 題材名 「最上級生としてできることを考えよう」(第6学年・2学期)

2 本題材及び本時について

本題材は、学校生活をよりよくするために最上級生として自分にできることを考えて、実践していくものである。本時は、学校生活をよりよくするために最上級生として自分にできることを考え、具体的な実践目標を自分で決めることがねらいとなる。自分の意見が進んで発言でき、一人一人の意見が大事にされるような話し合いとなるよう、本時の研究上の手だてを次のように具体化した。

3 授業の実際

導入では、事前のアンケート結果から学校生活に対する意識の傾向を確認したり、本学級の児童が考える最上級生の役割と現在の自分たちの姿とを比較したりして、課題意識をもたせた。そして、最上級生としてよく取り組んでいることを生かして学校生活をよりよくしてほしいことを伝え、話し合いのめあてを「学校生活をよりよくするために最上級生として何ができるか話し合おう」とした。

事前アンケートでは、学校生活をよりよくするためにどんなところを改善したいかを質問したところ、次のようなことが挙げられていた。

改善したいこと

- ・あいさつ
- ・返事
- ・友だちへの態度や言い方
- ・いじめ
- ・学校の中を走る
- ・ルールが守れない
- ・上級生の言うことを聞かない
- ・自分から行動しない
- ・すぐにあきらめてしまう

事前アンケートの中に、本時の話し合いの内容に関する質問項目を設定。
事前に時間をかけて考え、自分の意見をもった上で本時の話し合いに参加。

◆ 〇の学校生活をよりよくするために、どんなことが改善されるとよいと思いますか、また、改善するためにどんなことをするとよいと思いますか。(2つまで)
改善されるとよいところ

① ちやがき夫が「り」	ちやがきを走っていた分注意しよう。
② あいさつ・へんじ	自分がいじめっかへんじを大声でやる。

図1 事前意見カード

そこで、本時では、これらのことを改善するにはどうしたらよいか、最上級生として何ができるかを話し合うこととした。

話し合いの際には、自分の意見をもった上で話し合いに参加できるよう事前意見カード(図1)を活用したり、一人一人の意見が大事にされ、安心して発言できるような話し合いのルール(図2)を確認したりした。そして、ここからは児童主体の話し合いになるよう、司会進行は児童に務めさせた。事前意見カードを集約することによって、どんな意見が出されるか予想ができていたので、話し合いの中で意見をより具体的にできるよう、進行役の児童とは事前に打合せを十分行っていた。すると、次のような話し合いになった。

- 思ったことは声に出して伝えよう。
- 話したいことは交代で話そう。
- 人の意見は最後まで聴こう。
- 聴いていることを態度で表そう。
- 人の意見を批判しないようにしましょう。
- 多数決は最後の手段にし、全員の納得を目指そう。

図2 話し合いルール

改善したいことについて、最上級生として何ができるかを話し合う様子

絵：改善したいことと、改善するために何ができるかを発表してください。

S1：わたしは、あいさつを改善したいです。もっと大きな声ですれば学校がもっと元気になると思うので、6年生が手本になって大きな声であいさつをしたらいいと思います。

絵：ありがとうございます。今の意見について、何か付けたしや質問はありますか。

S2：わたしもあいさつは大きな声でするべきだと思います。それに付けたしで、もっと積極的にできるといいと思います。

S3：ぼくは、あいさつだけでなく返事も大きな声で積極的にするとよいと思います。名前を呼ばれても返事が小さかったり、先生に「いいですか」と聞かれないと返事ができなかつたりするからです。

絵：では、積極的にあいさつや返事をするとは、具体的に言うとうどういうことだと思いますか？

S3：返事は、「いいですか」と聞かれる前にできるようになるといいです。

S4：話をちゃんと聞いていればできるよね。

S2：あいさつは、人にされる前に自分からできるといいと思います。

話し合いでは、事前意見カードの活用や話し合いのルールの設定により、多くの児童が、自分の意見を進んで発言しようとしたり、友達の意見をうなずきながら落ち着いて聴いたりしていた。しかし、自分の意見に自信がもてなかつたり、ふだんから発言に消極的だったりする児童は、事前意見カードによる意見を書けていてもそれを発表できず、話し合いへの参加も積極的とは言えなかつた。

その後、話し合いで出された意見を参考にして、実践目標（自分がこれから取り組みたいこと）を具体的に考え、自己決定カード（図3）に記入させた。最後に、自分が決めた実践目標を発表し合い、相互に励ましのことばと拍手を送り合って実践への意欲を高めて授業を終えた。

授業後の振り返りでは、「友達に自分の意見を聴いてもらえてよかった」「発表は恥ずかしかったけど、うなずいてくれて安心した」という感想が多く出された。しかし、「恥ずかしくて発表できなかった」「友達とほとんど同じ意見だから発表しなかった」という感想もあった。

4 考察

事前意見カードを活用することで、児童は自分の考えをもったうえで話し合いに参加でき、自己肯定感が高まる第一歩である進んで発表する姿があった。また、一人一人の意見が大事にされるような話し合いのルールを設定することで、話し合いの場面で、児童は安心して発言したり落ち着いて意見を聴いたりできていた。授業後の児童の感想からも、友達に認められる喜びを感じている様子があった。しかし、事前意見カードによる意見が書いてあっても、自信のなさや恥ずかしさから発言できなかつたり、友達に任せて発表をしなかつたりする児童もいた。自己肯定感を高めるためには、自分で自分を認める気持ちが大切であり、「自分の意見が発表できた」「友達に認めてもらった」といった経験を積み重ねる必要がある。全員の発言を保障する手だてを考える必要がある。また、自分の意見に自信がもてないと、多くの児童は自ら進んで発言することはできないので、事前意見カードの活用の仕方を改善する必要がある。

図3 自己決定カード

実践 2

1 題材名 「学級目標の達成度を高めよう」(第6学年・2学期)

2 本題材及び本時について

本題材は、学級目標の達成度を高めるための取組を考え、学級全体で取り組んでいくことを決めて実践していくものである。本時は、学級目標の学習に関する項目「かしこさ」を取り上げ、その達成度を高めるために学級全体で取り組んでいくことを考えて決めることがねらいとなる。前述の項目とは、5月に児童が話し合いで決めた学級目標の一つであり、「先生の方を見て話をよく聞き、積極的に手を挙げて発表しよう。また、発表や返事は、はっきりと声を出して言おう」と設定されている。実践1の考察を踏まえ、話し合いへの能動的な参加を促すために、本時の研究上の手だてを次のように具体化した。

3 授業の実際

導入では、卒業までに学級目標の達成度を自己評価したときに10点満点(目標設定時を3点とする)で何点以上にしたいかを問いかけた。すると、8～9点という答えが返ってきた。そして、事前アンケートでとっていた現時点での達成度を自己評価した点数の平均値を提示(6.1点)すると、「まだ全然届かないな」「どうにかしないとだね」など、課題意識をもったと感じるつぶやきが聞こえてきた。そこで、話し合いのめあてを『学級目標の「かしこさ」の達成度を高めるための取組を決めよう』とした。そして、学級目標の「かしこさ」を三つの観点(①先生の方を見て話をよく聞き、②積極的に～、③また、～)に分け、それぞれの課題解決の方法を話し合った。まず、事前意見カード(図4)に書いておいた意見を、トークングスティック(図5)を使って全員に発表させたところ、次のような意見が出された。

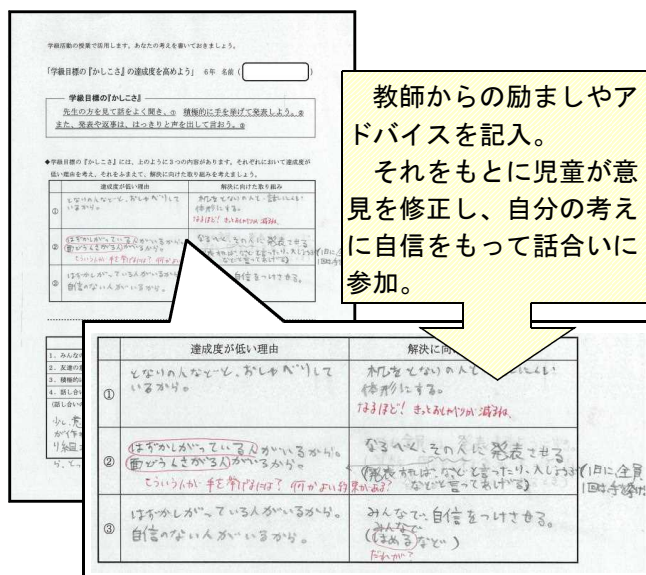


図4 事前意見カード

①先生の方を見て話をよく聞き、

- ・手悪さをやめる。
- ・机を、隣の人と話しにくい並びにする。
- ・意識をもって聞く。
- ・相手の顔をよく見る。

②積極的に手を挙げて発表しよう。

- ・1日に全員一回は手を挙げるというルールをつくる。
- ・はずかしくても手を挙げる。
- ・間違った答えを言っても笑わない。
- ・分かったら手を挙げるというルールをつくる。

人形を一人ずつ順番に回して発言。持っている人だけ発言でき、その他は話に耳を傾けることを約束。これで全員の発言の機会を保障。



図5 トークングスティック

③また、発表や返事は、はっきりと声を出して言おう。

- ・朝や帰りに大きな声であいさつをする。
- ・発表したらみんなでほめて自信を付けさせる。
- ・しているのが自分だけでも、当たり前と思ってやる。
- ・話を聞くことから始める。

ふだんは意見をあまり言えなかったり友だちの意見に流されがちだったりする児童も、しっかりと自分の意見を言うことができた。また、発表者以外の児童は、発表者を見ながら落ち着いて意見を聴くことができた。

出された意見を比べ合い、みんなで

取り組む方法について話し合う際には、実践1で設定した話合いのルールを確認したあと、取組を絞るための観点として「取組がみんなで確認し合えること」を提示した。そして、ここからは児童主体の話合いになるよう、司会進行は児童に務めさせた。事前意見カードを集約することによって、どんな意見が出されるか予想ができていたので、話合いの中で意見をより具体的にできるよう、進行役の児童とは事前に打合せを十分行っていた。すると、次のような話合いになった。

②について、みんなで取り組むことを話し合う様子

- S1：1日に一回は手を挙げることは、みんなで確認し合えると思います。
- S2：うんうん。一回だったら発表が苦手な子もがんばれそう。
- 聡：いつも手を挙げてる子はどうしますか？
- S2：では、自分に合った回数を自分で決めるといいと思います。
- S3：わたしもその考えがいいと思います。毎朝一人一人が目標の回数を決めて、帰りに振り返ったらいいいと思います。
- S4：なるほどね。こうやって発表をがんばれば、少しずつはずかしさもなくなるよね。あっ、そうならば三つ目の観点も解決しちゃうじゃない？
- S4以外：おお～、そうだね。S4ちゃん、すご～い。



図6 話合いの様子

自分の意見を自信をもって言えたことで発言への抵抗が減り、その後の話合い活動にも積極的に参加できていた。そして、友だちの意見を認めるつぶやきが増え、よい雰囲気での話合いにつながった。

話合いの結果、みんなで確認し合いながら取り組むこととして、①については、「手悪さやおしゃべりをせず相手の顔を見る」、②については、「1日に〇回以上手を挙げて発表する（自分に合った回数を自分で決める）」、③については、「発表しやすい雰囲気をつくるために、友だちの発表を助けたり認めたりする」ということが決まった。事前意見カードの振り返り記入欄の児童の記述では、「自分の意見がちゃんと言えてよかった」「みんながちゃんと聴いてくれてうれしかった」など、発言できた自信と認められる喜びを感じている児童が多かった。

4 考察

トーキングスティックを活用することによって、全員の発言の機会を保障することができ、全員の意見を共有しながら話合いを進めることができた。また、事前意見カードに教師からの励ましやアドバイスを記入することで、自分の意見に自信をもったり事前に修正したりでき、友だちの意見に流されることなく自分の意見を発言できた。振り返りからも、自分に自信をもち、自分を認めるようになってきた様子が見られた。こういった経験の積み重ねが、自己肯定感を高めることにつながると考える。